

Title	東京歯科大学広報 第312号 2024年03月25日発行
Journal	東京歯科大学広報(312)
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/6432">http://hdl.handle.net/10130/6432</a>
Right	
Description	

# 東京歯科大学広報



甲辰(きのえ・たつ)

# 年頭の挨拶

学校法人東京歯科大学  
理事長

井出 吉信

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

まずは令和6年能登半島地震発生に際し、本地震でお亡くなりになった方々、また被災された方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

本年の目標は、学生、教員、事務職員の確保です。まさしく、少子高齢化の波が現実として東京歯科大学にも押し寄せてきているということを皆さんも肌で感じられているのではないのでしょうか。

昨年11月に実施された推薦入試の受験者数は、例年よりも減少しました。民間試算によると、2023年の出生数は80万人を切り、8年連続で過去最少を更新する見込みですので、そのことが受験者数に直接影響を及ぼすこととなります。昨今、高大連携による提携協定締結の記事を目にする機会が増えましたが、裏を返せば学生獲得競争が激化していることといえます。

近年、大学院への進学者も減少しています。大学院入試説明会も開催されていますが、説明会へ参加する人は進学を考えている人ですので、大切なのは「進学を考えていない人はいかに呼び込むか」であります。昨年暮れに千葉歯科医療センターを訪れた際、研修医と話す機会がありました。大学院への進学を希望していない研修医に、大学院に進学する選

択肢を私から説明をしたところ、「説明会に行ってみようかな」「先生に相談しようかな」という発言を聞くことができました。昔から、臨床講座は大学に残る人が多く、基礎講座は残る人が少なかったので、私も教授時代は、学生がまだ第1学年、第2学年の頃から何人も目星をつけながら、その中から1人でも進学してくれたらいいという思いで自分の講座に募集したものでした。先生方には、みずから講座員あるいは大学院生を集めていただきたいと思います。なぜならば、本学の教育、診療、研究、すべてにおいて、教員なくしては成り立たないからです。

また、それを最大限にサポートしているのが、事務職員です。職員の人材確保も大変難しくなっています。かつては募集をすれば100人程度の応募がありましたが、近年は10名から20名程度しかありません。単にホームページに募集要項を掲載するだけで、応募者が集まる時勢ではなくなっています。人材を集めるためには、ただ待っているばかりでなく、みずから工夫して働きかけることを意識していただくのが一番ではないかと思います。そういった感覚を持つことが、ひいては、これからの東京歯科大学の発展に繋がると思っております。

以上、簡単ではございますが、年頭のご挨拶とさせていただきます。



## 甲辰（きのえ・たつ）

「甲」は、甲乙丙（こうおつへい）と数える際の最初の文字にあたるもので、物事の始まりを意味します。

「辰」は、十二支の中では唯一の架空の生き物である龍（竜）を意味し、天に昇っていくその様子から、新芽がぐんぐん伸びていく様が思い浮かびます。

この2つの組み合わせである「甲辰」は、

- 新しいことに挑戦して成功する
- これまで準備してきたことが形になる

など、大変縁起のよい年になるといわれています。

# 年頭の挨拶

東京歯科大学  
学長  
一戸 達也

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今年には1月1日の令和6年能登半島地震、そして2日の羽田空港での日本航空機と海上保安庁飛行機の衝突事故と、大きなニュースで年が始まりました。地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今もなお避難生活を余儀なくされている被災地の方々にお見舞いを申し上げます。また、海上保安庁の飛行機に搭乗し殉職された方々のご冥福をお祈りいたします。

一見まったく関係のないように思われるこの2つの大きな出来事ですが、皆さんご承知のとおり、海上保安庁の飛行機は能登半島地震の被災地への支援物資を輸送するために離陸するところでした。地震が発生し、日本政府は被災地からの要請を待たずに物資を届ける「プッシュ型支援」を積極的に活用する方針を示したことで、自衛隊や海上保安庁など公的機関は、この指示に従って、使命感を持って対応にあたっていたわけです。その結果、海上保安庁の飛行機は支援物資を積み、2日の夕方に離着陸で混み合っている羽田空港から飛び立とうとしていたわけです。複数の要因が重なりあの事故が発生したわけですが、その1つとして、聞き違いや思い込みといった、何らかの人的ミスが原因だった可能性があるといわれています。

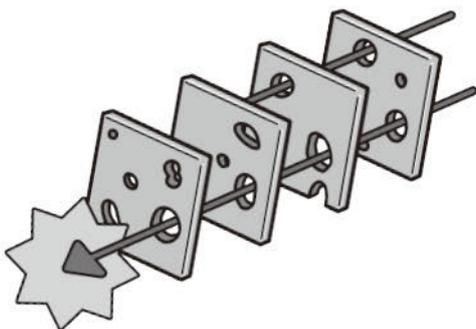
医療事故で、思い込みが大きな事故の原因になることは皆さんもご承知のとおりです。本人は正しいと思い込んでいたので、本人自身で防ぐことは難しく、今回のこの衝突事故はまさしく、皆さんご存知の「スイスチーズモデル」であると強く感じました。

本日から診療が始まりますが、さっそくこのスイスチーズモデルをよく頭に入れていただいて診療にあたっていただきたいと思います。診療に限らず、教育でいえば、本日から実施される第6学年の総合学力試験、2月の入学試験、その他の学内試験、これらもスイスチーズモデルを意識していただきたいと思います。たとえ、その場ではほんの少しの許容範囲の手違いだとしても、それが積み重なることで、大きなトラブルとなりえます。試験ですから厳正に実施しなければなりません。研究においても、年度末ですから科研費などの最後の仕上げ、また精算なども間違えがあってはいけません。事務職員の皆さんは予算や決算の見込みを作るとしていますが、これらも間違えがあってはいけません。

今回の地震とそれに関連して発生した航空機の衝突事故は、我々にとってこのスイスチーズモデルを意識させるためのとてもよい機会であり、たくさんの犠牲をはらって我々はそこから学ばなければならないと感じています。今年1年、このスイスチーズモデルを考えながら自分の職場で確実に仕事をこなしていただきたいと思います。ひとりで抱えることなく、情報を共有して間違いのないような仕組みを作る。必要であれば、アナログに頼ることなく、ITをはじめとするデジタル化を進めなければなりません。そういうことも含めてよりよい仕事の環境を作りたいですし、皆さんがより楽しく健やかに仕事ができるような環境を作っていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

今年1年、皆さんが充実した仕事ができるようお祈りしまして、私の挨拶とさせていただきます。

## スイスチーズモデルとは



▲スイスチーズモデルのイメージ

イギリスの心理学者ジェームズ・リーズンが提唱した、ヒューマンエラーから事故・トラブルに至るモデルのこと。

事故は単独で発生するわけではなく、複数の事象が連鎖して発生するという考えかた。事故やトラブルが想定される事象に対して、いくつかの「防護壁(エラーを防ぐ要素)」が設けられ、通常はこの防護壁を何枚も重ねて立てることによって事故を防止するが、これらの防護壁の脆弱な部分や連鎖的なエラーといった「穴」を次々に通過してしまうと、事故・トラブルに至る。このように防護壁に穴が開いていることをスライスしたスイスチーズの姿にたとえ、「スイスチーズモデル(Swiss cheese model)」として提唱された。

# 年頭の挨拶

東京歯科大学  
事務局長

田口 円裕

新年明けましておめでとうございます。まず、1月1日午後4時過ぎに発生した、令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。今は発生直後ですので、被災地では初期の医療活動が行われていますが、地震発生後しばらくしますと、被災地での歯科的治療や、避難場所での口腔ケアが非常に大事になってきます。また、お亡くなりになられた方々の身元確認に際して歯科の貢献が非常に大事になってきますので、そういった部分で歯科大学として協力できればと考えております。

先ほど理事長、学長より大所高所のお話をいただきましたが、私からは事務的な部分のお話をさせていただければと考えております。今年は、東京歯科大学がこれから150周年、200周年を迎えるにあたって非常に重要な1年になると考えております。その重要な1年の中で、対応すべきいくつかの課題があるかと思っておりますので、その点についてお話をさせていただきます。

1つ目は、昨年改正された私立学校法（私学法）の改正に合わせて、今年度はさまざまな大学の規程などの改正が必要になります。またその規程改正に合わせて、組織の再編も含めた大きな見直しも必要になってくるのではないかと考えており、これからの東京歯科大学の発展に繋がるものと考えております。

2つ目は、今年の4月に診療報酬改定が行われ、6月から実際に施行されます。今回の改定では、医科・歯科・調剤においてさまざまな制約の中での改定が行われる、と聞いております。特に昨今の賃金上昇や物価高騰など、それらを診療報酬改定で対応することになると聞いております。実際には

これから決まっていく具体的な内容を注視しつつ、水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターの3施設で適切に対応していく必要があると思っております。

3つ目は、中長期的な話になりますが、今年の4月から新たな勤怠システムの構築を考えています。また、来年の1月には水道橋病院に電子カルテを導入した医療系システムの改築を考えています。これは先ほどお話しをさせていただいた、これから先を見据えた東京歯科大学の大きな核になっていくのだろうと考えていますので、先生方、職員の方々と協力しながらしっかりと構築をしていく必要があると考えています。

最後になりますが、2040年に向けて我が国では生産年齢人口が急激に減少し、さまざまな分野において人材確保の必要性が叫ばれています。理事長からもお話がありました。本学でも人材の確保、あるいは育成が非常に大きなテーマになってくるのだろうと思います。教員の先生方には、これまで自己評価などの制度を導入しておりますが、今年度から職員の方々にも自己評価を導入しております。新しい人材を確保することも非常に重要ではありますが、今働いている教職員の方々が、さらにモチベーションを上げて、この東京歯科大学のために働いていただけるような環境を作っていくことが非常に重要で、その方策を具現化することが私の重要な役割であると思っております。

この1年は非常に大事な1年になりますが、皆さんと協力しながらよりよい大学経営に向け、理事長をサポートしながら努力していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

## 2024年工作始めの会 開催

2024年1月5日（金）、水道橋校舎、市川総合病院、千葉歯科医療センターにおいて、2024年工作始めの会が開催された。

水道橋校舎では、午前9時より血協記念ホールにて開催された。河合宏明大学庶務課長の司会のもと、井出吉信理事長、一戸達也学長、田口円裕事務局長から年頭の挨拶があり、新たな気持ちで新年を迎えた。

市川総合病院では、午後5時45分より、市川総合病院講

堂とオンラインにて開催された。原 正樹庶務課長の司会のもと、西田次郎市川総合病院長、松井淳一副学長、吉川淳子副病院長から年頭の挨拶があった。

千葉歯科医療センターでは、午後6時より千葉歯科医療センター講義室にて開催された。一木治男千葉歯科医療センター庶務係長の司会のもと、片倉 朗副学長・千葉歯科医療センター長、加藤靖明千葉歯科医療センター参与から年頭の挨拶があった。



▲年頭の挨拶をする井出理事長



▲年頭の挨拶をする一戸学長



▲年頭の挨拶をする田口事務局長



▲年頭の挨拶をする西田市川総合病院長



▲年頭の挨拶をする松井副学長



▲年頭の挨拶をする吉川副病院長

## 学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験A、 学士等特別選抜A実施

2023年11月19日（日）午前9時より、水道橋校舎本館において、2024年度学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜および編入学試験A、学士等特別選抜Aが実施された。

学校推薦型選抜では85名、帰国子女・留学生特別選抜で

は20名の志願者が、また編入学試験Aでは10名、学士等特別選抜Aでは6名（併願含む）の志願者があった。

なお、結果については12月1日（金）夕方に郵送にて通知された。

## 2023年度第7回水道橋病院教職員研修会開催

2023年11月30日（木）午後6時より、オンラインにて、2023年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、はじめに「一時救命処置の変更点について」と題して歯科麻酔学講座の齊藤菜月助教による講演が行われた。齊藤助教は、JRC蘇生ガイドライン2020の変更点について、BLSの実際の流れを具体例をあげながら説明されたほか、水道橋病院内のAEDの場所および使用方法について説明された。

次に、「医療用酸素ボンベの取り扱い」と題して医療ガス安全管理委員会委員長の吉田香織講師による講演が行われた。吉田講師は、酸素ボンベの取扱いについて具体例をあ

げ、注意点や残量の見かた、交換方法、事故防止について説明された。

最後に「歯科矯正管理料及び使用器材のカルテ記載について」と題して、診療録指導委員会委員の有泉大助教による講演が行われた。有泉助教は、歯科矯正管理料や歯科矯正治療が保険適用になる条件について、具体例をあげながら説明された。

今回の研修会では、一時救命処置の変更点および医療用酸素ボンベの取扱い、歯科矯正管理料および使用器材のカルテ記載方法についての説明がなされ、教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

## SD（スタッフ・ディベロップメント）セミナー開催

2023年12月13日（水）午後5時30分より、水道橋校舎本館第一講義室においてSDセミナーが開催された。今回は、千代田区職員で社会福祉士の當山貴子氏を講師にお招きし、「認知症サポーター養成講座」と題してご講演をいただいた。

超高齢社会を迎え、今後ますます増加が予想される認知症の人が、住み慣れた地域で安全に暮らせる社会を実現するために、地域で一丸となった取組みが必要とされている。そうした中で千代田区では、認知症に正しい理解を持ち、認知症の人を支える取組みを積極的に実施している企業や大学を認

証し、認知症の人にやさしい街づくりに向けた社会的気運の醸成を図る「千代田区認知症サポート企業・大学」制度を行っている。

上記を踏まえ、本セミナーでは、認知症の現状や症状などの基礎的な知識に加え、認知症の人やその家族の気持ちなどについてもわかりやすく解説いただいた。

参加した教職員は認知症の正しい知識や周囲の関わり方を学び、改めて自分に何ができるのかを考えるきっかけとなる有意義なセミナーとなった。



▲講演の様子



▲講演される當山氏

## 2023年仕事納めの会開催

2023年12月28日（木）、水道橋校舎、市川総合病院、千葉歯科医療センターにおいて、2023年仕事納めの会が開催された。

水道橋校舎では、午後5時より血協記念ホールにおいて開催された。河合宏明大学庶務課長の司会のもと、井出吉信理事長、一戸達也学長から1年を締めくくる挨拶があった。

市川総合病院では、午後5時より市川総合病院講堂とオ

ンラインにて開催された。原 正樹庶務課長の司会のもと、西田次郎市川総合病院長から1年を締めくくる挨拶があった。

千葉歯科医療センターでは、午後2時より千葉歯科医療センターロビーにて開催された。一木治男千葉歯科医療センター庶務係長の司会のもと、片倉 朗副学長・千葉歯科医療センター長、加藤靖明千葉歯科医療センター参与から1年を締めくくる挨拶があった。



▲挨拶をする井出理事長



▲挨拶をする一戸学長



▲挨拶をする西田市川総合病院長

## 2023年度東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）各種研究助成進捗状況報告会開催

2023年度ウェルビーイングプロジェクト各種研究費助成に関する進捗状況報告会が、右記の日程でオンラインにて開催された。

助成金を活用することにより得られた充実した研究成果が、総勢24名の採択者により報告された。本進捗報告会は、参加者の制限は設けずに、全学的に参加希望者を募り開催された。プロジェクト推進委員を含む幅広い参加者より、研究のさらなる発展に繋がる多くの意見交換がなされた。また本進捗状況報告会は、学内で取り組まれている研究内容を共有することができる貴重な機会である。このような取り組みから、組織横断的な本学独自の特色のある研究の創出に繋がることが期待される。

### 大学院生研究助成・若手研究助成進捗状況報告会

- 開催日：2024年1月12日（金）、17日（水）午後5時～6時30分
- 発表者：16名
- 発表時間：10分間（発表と質疑、各5分間）

### イノベーション促進研究費助成進捗状況報告会

- 開催日：2024年1月18日（木）午後5時～7時
- 発表者：8名
- 発表時間：15分間（発表：10分間、質疑：5分間）

▲2023年度ウェルビーイングプロジェクト各種研究費助成に関する進捗状況報告会の開催日時と発表者数、発表時間

## 市川総合病院 2023年度第2回総合防災訓練実施

2024年1月23日（火）、市川総合病院において、建物設備などの点検および自衛消防訓練（通報・避難等訓練）が実施された。

午後2時30分より、消火器および屋内消火栓取扱い訓練が防災センター職員指導により行われた。午後3時30分からは、火災発生を想定した通報・避難訓練が7階西病棟を発

火場所として行われた。病棟職員と防災センター職員の組織的な活動と、消防用設備の有効活用により、館内の職員および患者の安全を確保するための初期消火活動から、実際に模擬患者などを設定して実践しながらの避難・誘導訓練が行われた。最後に当院の防火・防災管理者である水野利彦事務部長より講評をいただき終了となった。



◀消火器・屋内消火栓取扱い訓練の様子



◀避難訓練の様子

## 2023年度医療事故防止のための相互チェック実施

2024年1月24日（水）午後1時15分より、水道橋校舎本館第2会議室において、2023年度医療事故防止のための相互チェックが実施された。これは2年毎に国公立大学附属病院間で医療安全の観点から双方で評価するもので、4年ぶりに対面で行われた。

今回はチェック校として、福岡歯科大学医科歯科総合病院と広島大学病院より多職種で構成された6名が来院し、水道橋病院からは部門毎の担当部署所属の17名で対応した。石井 哲医事課長の司会のもと、双方の紹介から始まり、続いてチェックリストに基づき、担当者間で質疑応答が行われた。

続いて、チェック校見学希望に沿い、院内視察を実施した。各部署において、チェック校・担当者間で実際の現場を見ながら運用状態の確認がなされた。

最後にチェック校より講評がなされ、おおむね良好な結果



▲対面指導の様子

を得られ、午後3時40分に終了した。指摘事項については院内でフィードバックをし、今後の医療安全に向けた取り組みに還元していく方針である。

## 2023年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

2024年1月25日（木）午後6時より、オンラインにて、2023年度第8回水道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、はじめに「エナメル質初期う蝕について」と題して、診療録指導委員会委員の櫻井敦朗講師によりエナメル質初期う蝕についての概要、対応、フッ化物歯面塗布について、具体例をあげて説明がなされた。

次に「診療用放射線の安全管理」と題して、放射線科部長の後藤多津子教授により患者の医療被ばくの基本的な考え方、放射線治療の正当化、患者の医療被ばくの防護の最適

化、放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する事例発生時の対応など、医療従事者と患者側の情報共有に関する事項の順に説明がなされた。後藤教授は「医療被ばくの正当化と最適化により安全管理をしていただければ最適な診断ができる。最適な治療につながるよう必要なものは有効に画像を利用し、診療に役立てていただきたい」と講演をまとめられた。

今回の講演は、エナメル質初期う蝕や放射線治療への理解を深めることができ、水道橋病院のすべての教職員にとって大変有意義な研修となった。

## 2023年度医療安全対策地域連携加算施設間の相互チェック実施

2024年1月30日（火）午後1時より、水道橋校舎本館第2会議室において、2023年度医療安全対策地域連携加算施設間の相互チェックが実施された。これは施設基準「医療安全対策加算」で、同届出をしている保険医療機関間での評価実施が規定されており、毎年、市川総合病院を招いて医療安全・感染予防の観点から評価を受けている。

市川総合病院より福島裕之医療安全管理部長を中心とした担当者7名が来院し、水道橋病院からは部門毎の担当部署所属の16名で対応した。石井 哲医事課長の司会のもと、双方

の紹介、スケジュール説明が行われ、院内ラウンドを実施した。前回の実施時指摘事項を踏まえ、実際の運用状態について、現場の担当者間で聞き取り調査がなされた。

続いてチェックリストに基づき、医療安全・感染予防に分かれて、担当者間で質疑応答・関連書類の確認が行われた。

最後に、講評がなされ、おおむね良好な結果を得られ、午後4時に終了した。指摘事項については、院内でフィードバックをし、次回に向けて改善を進めていく方針である。



◀院内ラウンドの様子（手術室）

## 第495回大学院セミナー開催

2023年11月22日（水）午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第495回大学院セミナーをウェルビーイングプロジェクト（若手サイエンスアカデミー企画）共催で開催した。アメリカ合衆国インディアナポリスにキャンパスのあるインディアナ大学歯学部カリオロジー学講座准教授の安藤昌俊先生を演者としてお招きし、「診査・診断機器を用いた客観的・定量的齲蝕発見・検出」について、安藤先生ご自身の研究データや最新の知見を交えてご講演いただいた。

安藤先生のおもな研究テーマは、齲蝕の早期発見・検出、とくに齲蝕活動性のデバイス（診査・診断機器）を用いた客観的、定量的な測定方法の検証・確立である。今回のセミナーでは、なぜ診断機器が必要であるのかを解説され、齲蝕の診査・診断が伝統的に診査者による視診ならびに触診によって行われることによる問題点が提起された。

視診や触診など主観的な齲蝕の診断は訓練とすり合わせが重要であるが、定量化が困難であり、これらを補う目的で新たな齲蝕診査・診断機器の開発が必要とされている。講演では、一般的に研究・臨床現場で使用されている齲蝕の検出デバイスである光誘導蛍光定量法（Quantitative Light-induced

Fluorescence：QLF法）の測定方法・原理の解説や、安藤先生が近年発表しているラマン分光法（Stimulated Raman Scattering Spectroscopy：SRS法）による牛歯エナメル質脱灰像の画像・映像などが示され、基礎系だけでなく臨床系の大学院生も興味深く聴き入っていた。

SRS法は、入射光とラマン散乱光の波長差が分子振動のエネルギー分に相当することを利用し、分子構造や結晶構造などの情報を得ることのできる化学分野で利用頻度の高い分析方法であるが、歯科での応用はまだ少ない。講演後にはフロアから既存の齲蝕検出デバイスとの違いや精度の比較、ラマン分光法の臨床応用への課題などについて5名以上の大学院生・先生方から質問があり、診断デバイスへの知見を深めることができた。

安藤先生は、歯科分野におけるラマン分光法を用いた研究の進捗によって、非侵襲で齲蝕の早期発見・定量のできるデバイスの開発を目指しており、パデュー大学工学部と共同研究を実施する展望を述べられた。本講演は、予防歯科研究に携わるすべての研究者・臨床歯科医にとって大変有意義なセミナーとなった。

## 第496回大学院セミナー開催

2023年11月27日（月）午後5時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第496回大学院セミナーが開催された。演者として日本大学医学部附属板橋病院放射線診断科准教授の小橋優子先生をお招きし、「さまざまなモダリティで見る骨軟部疾患」と題してご講演をいただいた。小橋先生は1998年に聖マリアンナ医科大学を卒業後、聖マリアンナ医科大学放射線医学教室に入局され、東京慈恵会医科大学放射線医学講座助教、市川総合病院放射線科講師などを歴任し、現在は日本大学医学部附属板橋病院放射線診断科の准教授である。骨軟部画像診断に精通し、多数の論文や著書を執筆されている。

今回のセミナーでは、骨軟部腫瘍とその類似疾患の診断に

ついてご講演いただいた。講演は、骨の基本的な読影のポイントから始まり、病変の活動性の高さを骨膜反応や骨破壊パターンから推測可能であることを、具体的な症例を提示しながら解説され、骨軟部腫瘍についての関心を深めることができた。さらに各種モダリティの利点・欠点やそれぞれの診断のポイントについてのレクチャーがあり、小橋先生が実際に診断に苦慮した症例の提示は大変興味深い内容であった。

本講演は、各種モダリティの特徴を理解した検査選択や、そこから得られた画像での診断への造詣を深めることのできる講演であり、本学の大学院生にとって非常に有益なセミナーであった。

## 台湾医学大学での対面授業実施

2023年11月27日（月）午後1時10分より、台北医学大学（TMU）口腔医学院において、解剖学講座の阿部伸一教授が「Implant Anatomy」の講義を行った。

コロナ禍によりオンライン講義が続いたが、今回は4年ぶりの対面開催となった。110分間の授業を通じて、元気な学

生であふれる活気ある学内の様子を体感することができた。

今後も姉妹校協定のもと、台北医学大学とはElective Study Programによる学生交流をはじめ、教員の研究や教育による人的交流を継続的に実施する予定である。



▲Wei Jen Chang教授（左正面）と阿部教授、そして質問にも明るく元気に回答してくれたTMUの学生（5年生）たち

## 長期海外出張報告

オーラルメディシン・病院歯科学講座 講師 酒井克彦

2022年11月23日（水）より2023年11月22日（水）まで、ニュージーランドのカンタベリー大学ローズセンター脳卒中回復研究所（University of Canterbury Rose Centre for Stroke Recovery and Research）に長期海外出張をさせていただきましたので、その概要についてご報告します。本出張は2021年4月1日（木）より予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によるニュージーランドの国境閉鎖が長期化したため、約1年半遅れての実現となりました。延期にあたり、さまざまな対応にご尽力をいただいた大学事務、法人事務の皆様に感謝を申し上げます。

今回の出張先となりましたニュージーランドは、日本からの観光や語学留学の渡航先として人気ですが、医学系の留学先としては馴染みが薄く、本学からニュージーランドへの長期海外出張ははじめてのことでした。ニュージーランドは太平洋の南西の南半球に位置しており、南北に長い島国です。国土面積は日本の3/4程度、（日本と季節は逆になりますが）四季があり、火山地帯のため温泉もあるなど、日本と共通点が多い国です。一方で、人口は約510万人で日本の1/25程度、高齢化率は約16%であり、人口動態は大きく異なります。首都は北島にあるウェリントン、最大都市は同じく北島のオークランドで、私が滞在したのは南島のクライストチャーチでした。

クライストチャーチは人口が約40万人の南島の中心都市で、「ガーデンシティ」ともよばれる、美しい公園や緑が

多い街です。2011年2月22日（火）に発生したカンタベリー地震では日本人28名を含む185名が犠牲となり、街には大きな被害が生じました。現在のクライストチャーチ市内は、歴史的な建築と地震後に復興した近代的な建築が調和した街並みに変化しています。街のシンボルであり、地震で倒壊した大聖堂は、修繕するか取り壊すか長年にわたり議論があったようですが、ようやく復旧することが決まり、修繕工事が始まっていました。

医療システムは日本のような公的医療保険制度はなく、税により運営されています。住民は必ずかかりつけ医（GP）に登録する必要があり、原則として歯科を除くすべての医学的問題はまずGPを受診する必要があります。GPにより専門医診療が必要と判断された場合は専門医を紹介してもらいます。この際に公立病院の専門医を受診すると診療費は無料になりますが、すぐに予約を取ることは難しく、ウェイティングリストに掲載されることが多いようです。一方、私立病院では比較的迅速に診療を受けることができるものの、診療費は全額自己負担になります。歯科治療は0～17歳までは原則無料ですが、18歳以上は自己負担です。ダニーデンにあるオタゴ大学に、国内唯一の歯学部が設置されています。

私が在籍したローズセンターは、カンタベリー大学のキャンパスから5kmほど離れたSt George's Hospitalという私立病院内にラボが設置されていました。摂食嚥下リハビリテーションの世界的な研究者で、言語聴覚士である主任教授の



▲修繕が始まったクライストチャーチ大聖堂



▲筆者と Maggie-Lee-Huckabee 教授

Prof. Maggie-Lee Huckabeeをはじめ、Senior LecturerのDr. Phoebe Macrae、数名のポスドクと10名程度の大学院生が在籍していました。教室員の出身地はさまざまであり、ニュージーランドの他にイギリス、香港、マレーシア、シンガポール、南アフリカ、ロシアなど世界中の言語聴覚士が研究に励んでいました。また、ローズリハビリテーションクリニックが併設されており、Clinical Directorの言語聴覚士が集学的摂食嚥下リハビリテーションを実施し、ニュージーランド中から難治性摂食嚥下障害の患者さんが訪れていました。

Huckabee教授は、摂食嚥下障害の病態生理を探究するとともに、研究から得た知見を臨床現場に還元し、患者さんの臨床転機改善、生活の質の向上、地域社会に貢献することを目標とされていました。そのためにSwallowing Technologiesという会社を設立しており、経験豊富なエンジニアと連携し、臨床応用可能なデバイスの開発にも取り組んでいました。Huckabee教授のもっとも得意とする分野は、摂食嚥下リハビリテーションにおけるスキルトレーニングです。嚥下の基本的な運動は脳幹のCentral Pattern Generator (CPG) により制御されますが、大脳皮質からの下降入力運動計画や調整に重要な役割を担うことがわかっています。Huckabee教授は大脳皮質の可塑性に着目し、摂食嚥下障害のスキルトレーニングの基礎を築き、体表面筋電図デバイスを用いたスキルトレーニングのバイオフィードバックソフトウェアを開発されました。

Macrae先生は摂食嚥下における感覚-運動システムに着目しており、特にクエン酸に対する咳の反応、呼吸と嚥下の協調についての研究を行っていました。安全な摂食嚥下には感覚入力およびそれに対する防御反射が必須ですが、摂食嚥

下障害患者に対する口腔咽頭感覚の評価プロトコールはいまだ確立されていません。私はMacrae先生の指導の下、摂食嚥下障害患者の口腔咽頭感覚評価法の確立を目的に、感覚検査の信頼性を検証する研究を行いました。この研究成果については今後、学会発表および論文投稿を目指しております。

この他に、Huckabee教授が開発された咀嚼嚥下機能検査アプリ (ToMaSSApp) の日本語版開発にも携わり、本邦における信頼性および妥当性検証に向けた研究の準備をしてまいりました。

滞在中には、さまざまな研究を行っている先生方と意見交換をする機会にも恵まれました。7月にHuckabee教授主催による“Dysphagia think tank”という研究会が開催され、ノースウエスタン大学のBonnie Martin-Harris教授や藤田医科大学の稲本陽子教授など世界中の研究者がクライストチャーチに集まり、活発な議論が行われました。

今回の長期海外出張は、ニュージーランドでの摂食嚥下リハビリテーションの最先端の研究、臨床を学ぶとともに、日本の素晴らしさや改善すべき点を見つめ直すよい機会となりました。今回の長期海外出張の経験を、少しでも本学の発展に還元させていただき所存ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、このような機会の許可をくださった井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、新谷誠康国際交流部長に感謝申し上げます。また、松浦信幸オーラルメディスン・病院歯科学講座教授、野村武史口腔腫瘍学講座教授、両講座の医局員、市川総合病院歯科・口腔外科のスタッフの方々、関わっていただいたすべての皆様に、重ねて御礼を申し上げます。



▲ Rose Centre の嚥下造影設備



▲研究室のメンバーとの記念撮影

## 大塚啓史さん（第6学年） Joseph Lister Award（1位）を受賞

大塚啓史さん（第6学年）が、国際歯科学研究学会（IADR）の日本部会（JADR）において、Joseph Lister Awardを受賞した。一次審査を経た後、2023年11月25日（土）、東北大学医学部開設百周年記念ホール（仙台市）にて開催された第71回JADR学術大会において、英語によるポスター発表と質疑応答の審査の結果、見事1位となった。Joseph Lister Awardは、全国の歯学部学生を対象とし、歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的としている賞である。

発表タイトルは「Test-retest reliability on functional MRI for salty and umami taste（塩味とうま味についての脳機能

MRIにおける再実験の信頼性）」であった。本研究はヒト脳において、「うま味添加により塩味が強く認知される」という仮説を検証する一連の研究の第一ステップであり、「本研究における脳機能MRIの実験系に信頼性がある」との仮説を立て研究を行った。結果、味質と味の強さを認知する領域に脳活動が抽出され、また2日間とも同様の結果が得られたことから、実験系の信頼性が高く、今後は研究参加者を増やして集団解析が行えることが明らかとなった。引き続き研究を進展させ、減塩による生活習慣病予防に役立つ成果が出ることを期待された。

なお、本賞の受賞は本学はじめての快挙である。



▲左から、歯科放射線学講座の和田大岳助教、受賞した大塚さん、後藤多津子教授、松元秀樹助教



▲左から、一戸達也学長、受賞した大塚さん、後藤多津子教授

## 木村麻記講師

### 第77回日本口腔科学会学術集会にて優秀ポスター賞を受賞

2023年5月11日（木）から13日（土）に、岡山コンベンションセンター（岡山市）において開催された第77回日本口腔科学会学術集会にて、生理学講座の木村麻記講師が「象牙芽細胞の細胞内cAMP増加は2APB、Gd<sup>3+</sup>、Zn<sup>2+</sup>感受性Ca<sup>2+</sup>流入を誘発する」の演題で優秀ポスター賞を受賞した。

本賞は、発表時間3分、質疑応答2分の口頭発表によるポスター発表で、研究内容、プレゼンテーションの内容、研究成果が優れた発表に対して授与される賞である。大会期間中のポスター発表は166演題で、本発表は基礎的研究のセッションであったが、本研究で使用したcAMPイメージングの手法を用いた研究は本研究のみであった。質疑応答では座長から3点質問があった。

今回の研究は、反応象牙質形成や象牙質痛の発生と関連する象牙芽細胞内Ca<sup>2+</sup>シグナリングと細胞内cAMPとのクロストークに着目した研究である。加えて、象牙芽細胞内cAMPシグナリングの解明は新たな象牙質形成メカ



▲受賞した木村講師（中央）と川崎義幸教授（左）、日本口腔科学会理事長の片倉 朗先生

ニズムや三叉神経節ニューロン-象牙芽細胞間連絡での新たなATP放出経路を介した細胞間連絡メカニズムの解明につながることであり、今後の活躍とともに大きな成果を期待したい。

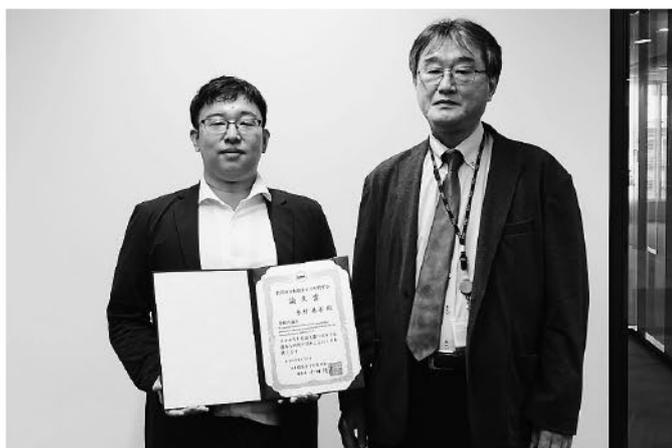
## 木村基善先生

### 第55回日本臨床分子形態学会総会・学術集会にて論文賞を受賞

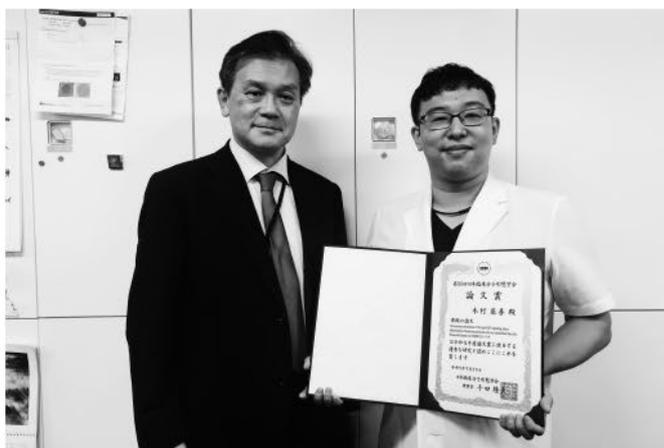
2023年9月29日（金）と30日（土）に、アクロス福岡（福岡市）において開催された第55回日本臨床分子形態学会総会・学術集会において、小児歯科学講座の木村基善先生が論文賞を受賞した。この賞は当学会を運営する学会誌に投稿された論文において、この1年間で発表された優秀な論文を表彰するものである。受賞論文は「The concurrent stimulation of Wnt and FGF8 signaling induce differentiation of dental mesenchymal cells into odontoblast-like cells」であった。

歯は歯原性上皮と間葉系組織の相互作用によって構成さ

れ、帽状期以降の際に歯胚に形成されるエナメル結節が歯芽形成の中心的な役割を果たしている。エナメル結節から間葉系組織への成長因子の関与は判明しているものの、分化過程における制御メカニズムは明らかではない。本論文では、エナメル結節から出ていることが知られているFGF8やWnt経路の活性化剤であるCHIR99021の添加により、間葉系細胞が一度欠失した象牙芽細胞を回復させることを報告した。本研究で示された結果は歯芽の再生に有用であることが期待される。



▲受賞した木村先生（左）と新谷誠康教授



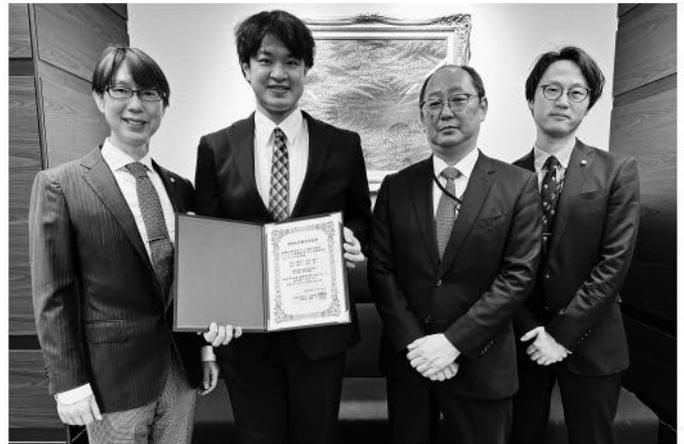
▲受賞した木村先生（右）と生化学講座の東 俊文教授

## 田上聖章大学院生 第82回日本矯正歯科学会学術大会にて優秀演題賞を受賞

2023年11月1日（水）から3日（金）に、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター・ホテル日航新潟（新潟市）において開催された第82回日本矯正歯科学会学術大会にて、歯科矯正学講座の田上聖章大学院生が優秀演題賞を受賞した。受賞演題は「歯根膜に接続分布する三叉神経中脳路核ニューロンの歯科矯正力に対する機械感受性イオンチャネル発現変動」であった。

本研究は歯根膜に接続する歯根膜分布三叉神経中脳路核（trigeminal mesencephalic nucleus; MesV）ニューロンを同定し、持続的な機械刺激を歯に与えた際の機械感受性細胞膜タンパク質の発現変動を評価することを目的とした。方法として、単離したMesV細胞における機械刺激感受性細胞膜タンパク質の発現を免疫蛍光染色にて検討した。また、矯正力による持続的な機械刺激を歯に与えた際の、歯根膜分布MesVニューロンの機械感受性細胞膜タンパク質の発現変動を免疫組織蛍光染色で検討した。考察として、単離したMesV細胞は体性感覚ニューロンであり、歯根膜に矯正力による持続的な機械刺激が負荷されると歯根膜分布MesVニューロンで機械感受性細胞膜タンパク質の発現が増加する可能性が示唆された。

矯正歯科治療患者では固定式装置装着後、咬合力に変化が



▲左から、西井 康教授、受賞した田上大学院生、生理学講座の滋川義幸教授、黄地健仁助教

生じることがあり、直接的な咬合力を受容するMesVの機械刺激受容メカニズムの詳細は明らかではない。本研究で、歯根膜分布MesVニューロンにおける機械刺激感受性細胞膜タンパク質発現の検討と、矯正力による持続的な機械刺激を歯に与えた際の歯根膜分布MesVニューロンの機械感受性細胞膜タンパク質発現変動の検討を行ったことが、本受賞の評価につながった。

## 堀 綾夏大学院生 令和4年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会にて 優秀研究発表賞を受賞

2023年12月3日（日）に、日本大学歯学部（東京都）において開催された令和5年度日本補綴歯科学会東京支部総会にて、老年歯科補綴学講座の堀 綾夏大学院生が令和4年度日本補綴歯科学会東京支部学術大会優秀研究発表賞を受賞し表彰された。同賞は21演題の口頭発表の中から特に優れた3演題が選出されたものである。受賞演題は「口腔機能低下症患者に対する3か月間の口腔機能管理の効果」であった。

本演題は、口腔機能低下症患者に対して行われる口腔機能管理の3か月間の介入効果を検討したものである。口腔機能低下症患者に対する口腔機能管理に関してはいまだ不明な点が多く、本研究では65歳以上の口腔機能低下症患者を対象に、栄養指導と機能低下に該当した項目に対する機能訓練を実施させた。その結果、介入により機能低下に該当した項目数が減少することが明らかとなった。

本研究の今後のさらなる発展と臨床への応用が期待される。



▲左から、共同演者の竜 正大准教授、上田貴之教授、受賞した堀大学院生、太田 緑講師

## 平林 剛主任歯科技工士、清水直子主任歯科衛生士 令和5年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰を受賞

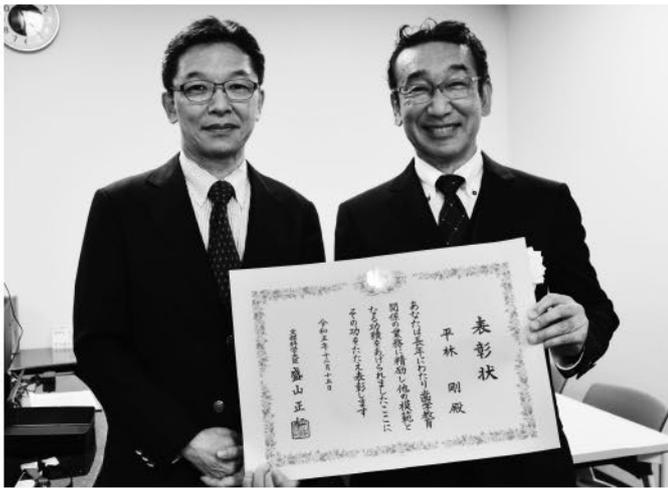
国公立大学における医学、歯学に関する教育・研究・患者診療などに長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰において、本学から推薦した水道橋病院の平林 剛主任歯科技工士ならびに千葉歯科医療センターの清水直子主任歯科衛生士の2名が選考され、2023年12月15日（金）に文部科学省にて開催された授賞式で受賞した。

平林主任歯科技工士は、1986年に水道橋病院に入職し、約38年にわたり歯科技工士業務に携わり、インプラントからCAD/CAMまで新しい技術の導入に取り組み、学会発表や地域歯科医師に対する講演を行うなど精力的に活動してきた。2015年からは主任歯科技工士として、医療安全の向上や歯科技工業務の効率化に努めてきた。さらには、本学学生

などに対する歯科技工教育においても丁寧な指導で尽力するなど、その功績は極めて顕著である。

清水主任歯科衛生士は、1984年に旧千葉病院に入職し、約34年にわたり歯科衛生士業務に精励し、診療の援助、歯科疾患の予防および口腔衛生の向上に尽力してきた。2017年に主任歯科衛生士に任命されてからは、各診療科において現場責任者として運営システムの構築に注力してきた。また、歯学部学生の臨床教育支援や、本学短期大学歯科衛生学科などの歯科衛生士を目指す学生への臨地実習教育など、後進の指導にも積極的に取り組んできた。

それぞれの立場において、本学の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の表彰となった。



▲受賞した平林主任歯科技工士(右)と山下秀一郎水道橋病院長



▲受賞した清水主任歯科衛生士

## 令和6年武道始め開催

2024年1月11日（木）、水道橋校舎西棟ラウンジにおいて、新年恒例の武道始めが、武道系クラブ顧問・部長、関係教職員を迎えて開催された。今回参加したクラブは柔道部、少林寺拳法部、弓道部、剣道部で、笠原正貴学生部長の司会により、一戸達也学長、村松 敬剣道部部長に挨拶をいただき、各クラブ代表者から決意表明の後、演武を披露した。各部の迫力ある演武に、参列した教職員からは大きな拍手が送

られた。

また本年は、4年ぶりに鏡開きも開催された。上田貴之学生副部長の司会にて、山本 仁副学長から挨拶をいただき、実際に杵と臼を用いて餅つきを行った。つきたてのお餅は大変おいしく、出席者は大いに舌鼓を打っていた。今年のさらなる活躍に向けて、みな心身ともに英気を養うことができたことだろう。



▲少林寺拳法部部長の宮崎真理子さん（第3学年）による決意表明



▲4年ぶりの鏡開き



▲勢いよく杵を振り下ろす一戸学長



▲味はきなこ、あんこ、大根おろし、のりの4種



▲車座になって食べるお餅は格別

## ■ 教員推薦図書の展示

例年、図書館では教員より学生に薦める図書を募っている。今年度は教養系教員3名より4冊、基礎・臨床系教員1名より2冊の推薦があった。このうち所蔵のないものについては新たに受け入れしたうえで、教養系教員分についてはさ

いかち坂校舎図書室、基礎・臨床系教員分については水道橋校舎本館図書館にて展示を行った。

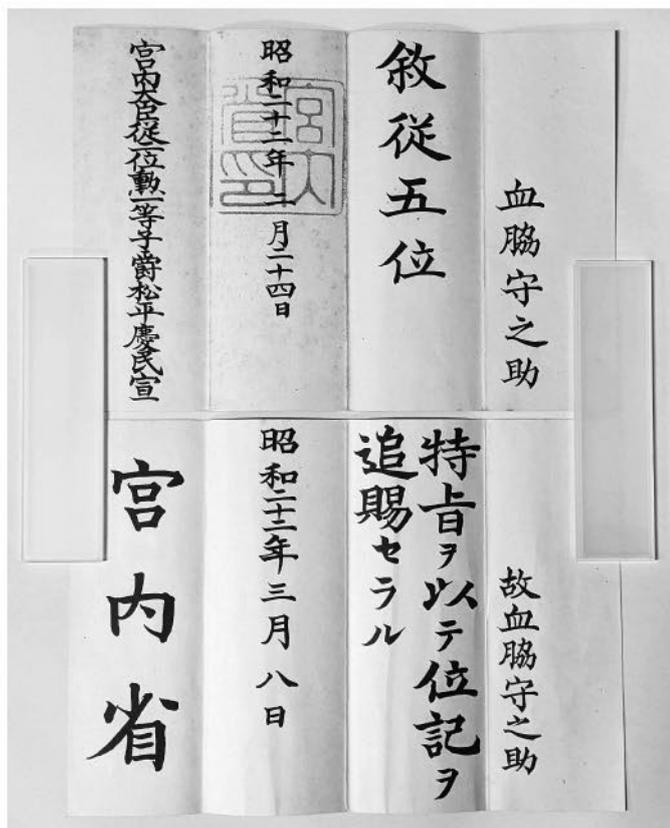
なお、推薦文の提出があった図書については、図書館ホームページにて紹介している。

## ■ 寄贈資料の紹介

本学建学者である血脇守之助に関する資料を、血脇の末裔である加藤栄助氏より多数ご寄贈いただいた。

寄贈された資料は、本学が過去に入手した関連資料と合わ

せて専門業者に整理を委託し目録化した。寄贈された資料の一部を紹介する。大切に保存し後世に伝えたい。



▲1947（昭和22）年に宮内省および宮内大臣から血脇に対して贈られた従五位の位記2通。血脇の功績を証明する資料である。



▲血脇と家族による旅行中らしき写真。笑顔で写る血脇の写真は数少ない。血脇のリラックスした様子がうかがえる。

## ■ 2023年度オープンキャンパス・試験入試説明会開催

2023年12月2日（土）午後2時より、水道橋校舎本館の短期大学教室において一般選抜試験および総合型選抜試験の説明会が開催され、本学への受験希望者と保護者33名が参加した。

当日は、2024年度一般選抜試験および総合型選抜試験の受験予定者と、2025年度以降の入学希望者の参加となった。鳥山佳則短期大学学長による歯科衛生士の職務・将来性について説明が行われた後、菅野亜紀教務部長による学生生活・本学の特徴について、片田英憲学生部長による2024年度総合型選抜試験および一般選抜試験について説明が行われ

た。続いて、総合型選抜試験の対策として模擬試験が行われた。次に場所を短期大学実験室に移動し、入学後の実習などに対して具体的なイメージを持ってもらえるよう模擬基礎実習を見学した。その後、少人数に分かれて臨床実習の主体となる水道橋病院の診療室、水道橋校舎本館図書館、水道橋校舎西棟短期大学実習室の施設見学を、短期大学教員の引率により行った。

見学終了後、希望者には水道橋校舎本館の短期大学ラウンジにて個別相談が行われ、講義の内容、学生生活、専攻科などに関するさまざまな質問に教職員が対応にあたった。

## ■ 2024年度東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻入学者選抜試験実施

2024年度東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻入学者選抜試験が、水道橋校舎本館14階において、2023年11月25日（土）にⅠ期、2024年1月27日（土）にⅡ期が実施

された。

志願者数は、Ⅰ期12名、Ⅱ期2名であった。当日は小論文および面接が実施され、後日郵送にて結果発表が行われた。

## 回想と抱負

# 2023-2024

Desai Karishma M  
Postdoctoral research fellow, Oral Health Science Center

Working at the Tokyo Dental College for a year now, has been a huge blessing. This year helped me grow not just in academics and research, but also as a human being.

On the research front, I learnt things that I have always wanted to understand deeply, such as genotyping, using flow cytometry, making cryosections and handling a laser confocal microscope. I am really grateful that I could learn from the best faculty and colleagues, who made learning a really fun and rewarding experience.

On the personal front, during my daily train commute, I built a new habit of reading books. I am especially happy that I continue to learn about the culture and life in Japan. My friends and colleagues welcomed me with open arms, kindness and warmth in their hearts. I realized that language is merely a means of communication and that people understand each other at a deeper human level.

For the next year, I hope to obtain research grants and integrate further what I learnt into a meaningful research project. My definite goal is to enjoy this journey with my colleagues, learn as much as I can, and form a long-term association with the Tokyo Dental College.

安達 梨乃  
短期大学 第2学年

第2学年の前期では、臨床実習に向けた歯学の専門的な講義と相互実習が始まりました。第1学年と比較して難しい科目が多く、苦戦する部分もありましたが、クラスメイトと互いに助け合いました。また、相互実習でははじめて人の口腔内に触れ、模型上では得ることのできなかつた知識と技術を習得することができました。科目試験が終わり、私たちは緊張と不安の中、臨床実習が始まりました。今まで習得したものを活かし、日々向上心を持って実習に挑みましたが、まだまだ自分たちの中での課題が多くあることを実感しました。

2024年度は、Ⅱ期実習に向けて班員同士で助け合い、Ⅰ期以上の技術や知識の習得とともに、国家試験に向けての学修も進めていくことが必要であると考えています。

井口 祐子  
市川総合病院 コ・デンタル部 歯科衛生士

2022年7月に育児休暇から復帰し、2023年は仕事と育児

で忙しい1年でした。復帰してからは、急な子どもの体調不良で欠勤することがあり、ご迷惑をお掛けしたと思います。

2023年は学会のシンポジウムで発表する機会をいただきました。学会準備は、子育てする前と比べると、なかなか思うように進まず苦戦しました。早々に準備に取り組み、皆さんのサポートもあり、10月のシンポジウムを無事に終えることができました。2023年はコ・デンタル部の皆さんにサポートしていただいたので、2024年ではさらにみんなが働きやすい環境に整えていきたいと思います。コ・デンタル部の人数も増え、年代もそれぞれいますので、お互い協力しあい、気持ちよく業務ができるようにしていきたいです。

岩澤 菜々恵  
短期大学 歯科衛生学科 助手

2022年3月に本学専攻科を2期生として卒業し、教員助手になりました。短大教員の中では、年齢的にも、経験的にも学生に一番近い目線を持ちながら、日々励んでおります。今年度は2年生の副主任に着任いたしました。10月に臨床・臨地実習に送り出すことの責任の重さを痛感するとともに、学生教育のために自分は何ができるのかを考えさせられました。学生の頃の先生方、現在は立場が変わって先輩方にはご指導ご鞭撻いただきながら、学生には笑顔をもらいながら奔走しております。

学生、教員、それぞれの視点から橋渡しを努めつつ、よりよい歯科衛生教育に貢献できるよう2024年も精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

岩本 華奈  
歯学部 第1学年

高校では友人と勉強することや遊びに行くことが難しい日々を過ごしました。しかし、2023年は行動制限が徐々に緩和され、大学では新たな友人とマスク越しではなく直接顔を合わせて学校生活を送ることができました。その中で、人とコミュニケーションをとる際の表情や、ひとりでは解決できない物事を仲間と協力して成し遂げることの重要性を感じました。また、放課後に友人と出掛けるなど学生らしい生活を送ることもできました。

2024年は第2学年なり、大学での生活に慣れ、気の緩みが現れる頃だと思います。しかし、実習が増え、より周りの人と協力し合う必要があるため、この1年を通して学んだことを活かして生活していきたいです。

### 岡崎 恵子 図書課 事務員

1年間の育児休業を経て、2023年12月に職場復帰をしました。関係各所には大変お世話になりましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

この1年間はあっという間で、気がついたら娘は1歳になっていました。成長するにつれ、手がかかるようになってきましたが、可愛さがすべてカバーしてくれています。我が家では主人が半年間の育児休業を取得し、二人三脚で育児をしてきています。昨今話題の男性の育児休業ですが、出産の少し前の法改正や主人の会社の理解もあり、無事取得することができました。実家が遠方にあるといった理由で家族の援助が得られなかったため、主人の育児休業は本当にありがたかったです。はじめての育児で右往左往しながら協力し合い、今しかない子どもの成長を共有できたことは、かけがえない経験になったと思います。

職場復帰後、これを執筆している12月は、まだ育児脳からの切り替えが上手くいかず、探し探し、思い出しながら仕事に向き合っています。2024年は仕事と育児の両立が図れるよう、できるだけ早く脳みそと体を慣らしていくことを短期の目標としたいと思います。

### 小倉 幸樹 歯学部 第3学年

私にとって2023年は、刺激になることが多い1年でした。臨床科目の講義と実習が始まり学ぶ内容が多くなったことに加え、生理学講座で卒業論文を書かせていただくことになり、時間に追われる日々が続きました。思うようにいかず両立できないのではないかと考える時期もありましたが、大学院生が研究に一生懸命取り組む姿を見て、自分もまずは目の前のことに全力で取り組んでいこうと思うようになり、1年を乗り切ることができました。

第4学年は総合学力試験に加え、CBTやOSCEといった大きな試験があります。昨年以上に時間に追われると思いますが、信頼できる友人が多くいるため、仲間と切磋琢磨し助け合いながら日々全力で取り組んでいきます。

### 笠原 清弘 口腔病態外科学講座 准教授

2024年1月より、水道橋病院副病院長を拝命しました。

昨年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、国内外の学会、研修会、そして外部講師を招いた講演会などの現地開催が再開となりました。この中で新たため強く感じたのは、「対面で気持ちを込めて語り合うことの大切さ」でした。この気づきは水道橋病院の理念である“思いやりの心による医療”にも繋がるものと思います。患者様との信頼関係を深めていく上で、これからも大切にしていきたいと考えて

います。

2024年は4月に診療報酬改定があり、その後は診療録の電子化に向けた準備も控えています。この変革の時期に、病院の運営に携わるすべてのスタッフが互いを尊重し、連携を深め、より質の高い医療を患者様に提供できるよう、ともに力を合わせていきましょう！どうぞよろしく願いいたします。

### 金安 純一 情報システム管理室 室長補佐

2024年1月下旬。回想と抱負の記事を書くのは今回が3回目。過去に入職時と部署の異動時に執筆してきた。当時の内容を読み返し、自分が成長できたか回想したが、「否」の一言に尽きる。すでに強仕の年齢を超えているのに大丈夫なのか…。

2023年1月に教務課より情報システム管理室へ異動しました。前部署では教育関連を中心に携わってきましたが、新部署は医療系（病院）関連にも携わり、法人（大学）全体に視野を広げ対応するなど、感覚としては転職した心情で1年が終わりました。

先日たまたま手に取った本に、2024年は「整理の年」との記載を発見。普段、占いは信用しない私ですが、試しに少し読んでみると、今までの内容がなんとなく当たっている。公私ともに「整理」がキーなので、ここは1つ「整理」を頭に入れて過ごしているのも一興の価値があるのかも…。

取り留めのない抱負ですが、2024年もよろしく願いいたします。

### 北島 彩花 歯内療法学講座 レジデント

歯内療法学講座に入局して早4年。最近は慣れもあるのか、つつい中だるみになりがちになってしまいます。そんな時に周りを見ると、目標に向かって頑張っている人にあふれていることに気づきます。私だけが取り残されているのでは？と不安になることもしばしば…。その反面、出遅れてはいけないと刺激を受けています。

思い返すと反省すべき点が多々ありましたが、古澤成博教授をはじめ、医局員の先生方の支えもあり、2023年も楽しく終えることができました。2024年は、自分の力を伸ばしていき、歯内療法学会専門医の取得に向けて勉学に励み、今まででもっとも充実した1年になるよう日々精進していきたいと思っています。

### 木村 英晃 千葉歯科医療センター 薬局 主任薬剤師

私は薬剤師として医療に奉職し、2024年に30年目を迎えます。その間、感染症に関心を持つようになり、感染制御、抗菌薬適正使用を自身のライフワークとして取り組んでまい

りました。

2020年1月に新型コロナウイルス感染症が日本へ上陸しましたが、まさにOne Teamとなって努力した結果、2023年5月には5類感染症へ移行し、長いトンネルの出口がようやく見え始めました。しかし、人類の歴史は感染症との戦いの連続であり、新たな脅威が迫っていることをけっして忘れてはなりません。中でもサイレント・パンデミックといわれる細菌の薬剤耐性（以下AMR）の台頭が懸念され、抗菌薬適正使用などの対策を講じないと2050年には1,000万人がAMR感染症で死亡すると試算されていることを、一人ひとりが認識すべきです。

抗菌薬適正使用の理念は「50年、100年後にも現在と同じ標準抗菌薬を使用できるように今なすべきこと」であり、特に医療従事者は「患者を守り、薬をも守る責任を負う」との強い覚悟を持って日々業務を行っていかねばならないと考えます。しかし、このミッションは一部の人間だけでは不可能であり、人類すべてが協働すべき究極のチーム医療であると確信しています。

2023年は院内研修会で感染制御、抗菌薬適正使用の話をし、これらの大切さを知ってもらうよい機会となりました。2024年は教職員のみならず、患者・家族が少しでもAMRに興味を示してくれるよう、薬剤業務を通じて啓発していきたいと思います。

公共財である抗菌薬を未来へ自信を持って繋ぐ医療を、我々東京歯科大学から成し遂げようではありませんか。

#### 倉島 竜哉 生理学講座 大学院2年

2023年はさまざまなことに挑戦した年であった。ウェルビーイングプロジェクト大学院研究助成に採択していただき、研究をさらに進めることができた。頭を悩ませる結果も出てきたが、成功する前兆だと信じ、この後の研究を進めていきたい。国際学会での発表や、国際勉強会への参加も経験した。今年1月には国際勉強会で知り合った友人が日本へ来たので、水道橋を案内し、寿司を食べた。研究だけではなく、コミュニケーション力にも自信がつく経験となった。また、昨年から宇宙医学研究を開始した。宇宙研究・産業は想像以上に発展している。民間人宇宙旅行は数年先には実現する見込みであり、人類を再び月へ送る「アルテミス計画」も進行中だ。眺めるだけだった月がほんの少し近づいた気がする。

2024年は昨年を得た経験・繋がりを盤石なものにできるように、研究ではつねに頭と手を動かし、友人との遊びも大いに楽しむ年にしていく所存である。

#### 佐藤 涼一 衛生学講座 講師

大学に勤めはじめて7年目、大学院を卒業して自由に研究できるようになり、興味のままに研究を展開した結果、自分の趣味を色濃く反映した「全自動pH-cycling装置」の開発が成功して今年論文になりました。趣味は身を助け、好きな研究や趣味で集まった深いつながりの仲間こそが真に大切であることを痛感した1年でした。助けていただいたすべての友人に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

来年度は大学や研究仲間の助けのおかげで、アメリカへ留学に行くチャンスをいただきました。留学先の工学部には将来歯科に応用できるかもしれないテクノロジーを搭載したロマンあふれる装置のプロトタイプがあります。留学を糧に、さらに研究と趣味を先鋭化していく所存です。

#### 佐藤 里紗 短期大学 第1学年

入学してから1年が経とうとしています。2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されて以前の生活が戻りつつある中、私は真新しいことへの学びと成長を経験できた充実した年となりました。前期は歯科の基礎知識や解剖学、口腔衛生学などの科目を学び、後期は実習で器具や材料を使用し、スケーリングやフッ素塗布などの技術を学びました。広範な知識と技術の習得にとっても苦労しましたが、日々友人と教え合い、助け合い、励まし合いながら一緒に乗り越えることができました。2024年度からは、臨床・臨地実習が始まります。緊張も不安もありますが、実際に診療する場で実践的な知識・技術を知り得る貴重な機会ですので、努力を惜しまずスキルアップしていきたいと思います。

#### 柴田 咲 歯学部 第2学年

文系大学を卒業した後に編入したため、学習面・生活面ともに多くの不安を抱えながら入学しました。しかし想像とは違い、あたたかい学友たちが声をかけ支えてくれて、充実した楽しい学校生活を送ることができました。今まで学んだことのない分野の学習にはじめは戸惑いましたが、彼らのおかげで難問や大きな課題を乗り越えることができました。

努力をすれば結果はついてくるとわかった2023年だったので、慢心せずにさらなる向上心を持って2024年の学習に臨みたいと思います。第3学年での学習はより臨床に近づくとうかがいました。歯科医師になる者として責任や自覚を持って精進してまいります。

### 杉山 明子 市川総合病院 副看護部長

2023年8月より、副看護部長として看護部管理室で勤務をさせていただいております。看護部に入って一番に感じたのは、私の知らないさまざまところで、看護部長・副看護部長が奮闘しているということでした。看護部管理部門が果たすべき役割は、看護師が働きやすい環境作りをすること、それぞれの部署の責任者である看護師長の支援をすること、そして、病院経営に参画することであると考えます。

今後は、今までの自分自身の経験や、多職種と協働してきた強みを活かし、看護職員への支援につなげていくとともに、病院運営に貢献したいと思います。そして、一日も早く奮闘できる副看護部長になれるよう、努力していこうと思います。

### 都合 晋司 口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室 レジデント

大学院を卒業して1年が経ち、コロナ禍も収束し、スポーツが盛んになったことで口腔外傷の増加が見られました。この状況において、私はレジデントとしての立場で豊富な経験を積むことができました。また、育児にも順応し、新たに家族が増えるなかでの挑戦も経験しました。2024年においても、育児、臨床、研究のすべてにおいてさらなる精進を目指します。家庭と仕事の両面でのバランスを取りながら、子どもたちにとってもよい手本となるよう努力します。臨床では患者の健康を第一に考え、研究においては最新の知識を取り入れ、分野に貢献できるよう精進したいです。

### 戸村 拓真 歯科矯正学講座 助教

大学院を卒業した自分にとって、これからいろいろなことに挑戦してみたい。そんな思いを持ちながら大学で診療をさせていただいた1年であり、力不足を感じた1年でした。そんな中で自分には知識が不足しており、力不足を感じました。これまでは教えていただくことが当たり前だった自分にとって、人に伝えることの難しさを実感することが多かったです。5年生との臨床におけるディスカッションも、1つずつ噛み砕いて話すためには順序が大事であり、どこまで理解できているのか見通せなければなりませんでした。そのための知識が自分には足りていなかったことから、今年は知識の吸収を行いながら伝えていく2024年にしたいと思います。

### 中山 結仁 歯学部 第5学年

CBT、OSCEをクリアし皆で喜んだのも束の間、期待と不安の中で病院実習が始まりました。

頭の中で構築していたものが実際の臨床の場でどれだけ発

揮できるのか…。考えすぎてすでに「無」の状態でしたが、百戦錬磨の先生方の実際を見て、基本と臨機応変の大切さを学ぶ毎日はとても充実した日々となりました。

基本の大切さといえば、4年振りの開催だった全日本歯科学学生総合体育大会での我が卓球部の準優勝という結果も、一戦一戦基本に立ち返ることで成し得た結果といえます。何ごとも基本が大事、しっかり地に足をつけ第6学年も基礎と応用、基本と臨機応変の反復横跳び(卓球だけに)で皆と切磋琢磨していきたいと思います。

### 八戸 みなみ 教務課 事務員

2023年は、入職から約4年間所属した市川総合病院人事課を離れ、水道橋の秘書室へ異動となり、自分としては大きな転機となった1年でした。そこからさらに教務課への異動と、思いがけず3部署を経験することとなり、正直、不安を感じなかったとはいえませんが、周囲の方々を支えていただき、何とか1年を終えることができました。本当にありがとうございました。

どの部署も業務内容はまったく異なりますが、だからこそ異なる視点や考えかた、今までの経験をどこかに活かせると信じ、2024年も日々試行錯誤していきたいと思います。

### 平林 剛 歯科技工室 歯科技工士

今年は令和6年能登半島地震という大きな悲しい出来事からはじまってしまいました。被災された方々にお見舞いを申し上げます。

昨年末、文部科学大臣より大学教育関連の表彰をいただきました。水道橋病院の皆様のおかげだと大変感謝しております。長く歯科技工を職とし、いろいろと失敗を経験しました。夜中に模型に向かって、「どう？ 噛める時間かかってごめんね」などと独言を言いつつも、くじけずに何度もやりなおすことで自分の技術にしてこられたんだと思います。ただ、大学が水道橋にもどってからは、人との関わりが多くなり、人と接する難しさを強く感じました。特に若手医局員に対する指導や、学生に対する教育が必然となり、戸惑い悩みました。教えるために、当たり前でやっていた技工作業を、基本から見直し、用語も確認することになりました。そして、気がついてみると、そのことが自分自身の技術や知識の向上に繋がっていました。

人に教えることは自分を育てることになるんですね。

これからも積極的に指導や教育のお手伝いをさせていただき、自分自身を育てて(？もうボケ防止ですかね)いきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

**増田 祐太郎**  
水道橋病院 庶務課 事務員

この1年は知らないことばかりで、学ぶことの多い年でした。何度も同じことを先輩に聞いては、少々忘れ、間違えて、たびたび迷惑をかけながらも仕事を覚えることができました。周囲の方々には感謝しかありませんし、これからも迷惑をおかけしますが、よろしくお願ひします。私事では、自炊を頑張って美味しいパスタを作れるようになったことが学びです。

2024年は運動不足解消を画策中です。健康に気をつけて1年間を過ごしていこうと思います。仕事面では、まだまだミスや覚えていないことが多いので、できることは注意深くも、いろいろなことを学んでいきたいです。少しでもお役に立てるようにがんばります。

**松浦 由美子**  
語学研究室 准教授

2023年は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、さいかち坂校舎でもマスクの着用が個人の判断となり、学生も教員もお互いの表情を見ることができるようになりました。コロナ前の大学生活が戻ってきており、日々楽しそうな学生の表情を見ることができ、とても嬉しく思っています。

2024年も4月になると135期生が入学してきます。本年も、さいかち坂校舎で学生の皆さんが充実した大学生活を過ごせるようにサポートしていきたいと思っています。

**村頭 浄**  
歯学部 第4学年

2013年でもっとも思い出深かったことは、やはり部活活動でした。私の代の131期は全日本歯科学学生総合体育大会（デンタル）にはじめて出場することができました。部活の仲間とともに、1つの目標に向けて努力することの大切さを学ぶことができました。何もわからない中の幹部になった私たち131期でした。しかし、本学がデンタル大学順位総合3位に輝けたのは、わからない中でも自分たちなりに努力した現役生はもちろん、その家族、先輩方や先生方のサポートがあったからだと感じました。

過酷なデンタルを乗り越えた131期にできないことはないと思うので、同期一丸となって定期試験・総合学力試験・CBT・OSCEを乗り越えて、第5学年での病院実習も一生懸命頑張っていこうと思います！

**森田 奈那**  
オーラルメディスン・病院歯科学講座 助教

2023年4月より出向から戻り、2年半ぶりの市川総合病院での勤務となりました。歯科・口腔外科は2022年9月から新外来となり、慣れ親しんだ旧外来は薬物療法室（化学療法室）に改装されたこともあって、新しい施設に赴任したような気持ちでの勤務開始となりました。

助教任用1年目でもあり、いろいろな面で必死だったように思います。必死過ぎて周りが見えなくなり、ご迷惑をおかけしたこともしばしば…。今年はもう少し落ち着いてお仕事ができるようにしていこうと思います。また、今年は年始めより体調を崩し、健康の重要性も再認識いたしました。これからの1年は健康第一に、無理せず臨床に教育に研究に精進していきたいです。

**竜 正大**  
老年歯科補綴学講座 准教授

現在、129期生の学年副主任をさせていただいています。私自身、124期生、127期生に加え3回目の学年副主任です。

2023年、124期生で大学院に進学した教え子たちは最終学年となり、127期生の教え子は臨床研修を経て講座に入局してきました。

2024年、124期生の教え子たちは指導する側になります。私から見れば「教え子が教え子を教育」していくことになります。今までの「教育」に加え、「教育者の教育」が重要になっていく、そんな転機を感じています。

**渡辺 柚月**  
大学庶務課 事務員

入職してから早くも1年が経とうとしている事実に、驚きを隠せません。年々、月日の経過が早くなっているように感じます。省みれば、周りの皆様に助けていただければで、自らの不甲斐なさを痛感する毎日であったと思います。この場をお借りして、御礼申し上げます。

今後は、感謝の気持ちを言葉だけでなく、行動で、成果で、示すことができるよう精進してまいりたいと思います。また定例業務を正確に遂行することはもちろん、創造的思考を持ち、つねによりよい方法を模索しながら、何事にも取り組みたいと考えています。

本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

■学校法人栗原学園 オホーツク社会福祉専門学校

対 象 日：2023年12月21日(木)10:00~12:00

見学施設：標本室

見 学 者：学生11名(引率教員2名)

海外出張

■西井 康教授(歯科矯正)

2023 Taiwan Association of Orthodontists Annual Meeting  
への招待参加のため、12月2日(土)から12月4日(月)ま  
で台湾・台北へ出張。

■石原 和幸教授(微生物)

Gordon Conference “Biology of Spiroches” への参加のため、  
1月14日(日)から1月20日(土)までアメリカ合衆国・ベ  
ンチュラへ出張。

2023年12月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	金	講座主任教授会(臨時)、 短大水道橋病院臨床実習小委員会 [防火・防災安全自主点検日]	こどもサポートチーム運営会議	
2	土	短大オープンキャンパス・入試説明会		
3	日			
4	月			医療連携部会
5	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
6	水	大学院運営委員会、大学院研究科委員会 水病薬事委員会	虐待DV対応委員会 臨床検査運営委員会	
7	木		感染制御委員会 プログラム委員会	診療録整備部会
8	金	短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	市川保健所立入検査	
9	土			
10	日			
11	月		こどもサポート研修会	千葉校舎衛生委員会 研修管理小部会 千葉歯科医療センター医局長会
12	火	口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会 水病給食委員会	緩和ケア委員会	
13	水	水病SDセミナー [教職員研修会共催] 水病リスクマネージメント部会	第3回合同カンファレンス 救急委員会 ICU運営委員会	
14	木	第8回国書館事務連絡会 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 手術室運営委員会 説明と同意の質向上委員会	
15	金	第169回倫理審査委員会・第110回利益相反委員会 [環境清掃日][危険物・危険薬品廃棄処理日]	後期健康診断(～12/16) NSTカンファレンス	
16	土			
17	日			
18	月		後期健康診断(～12/19) 医療安全管理委員会	
19	火	1～3年生前期追・再試験(～12/25) 水病褥瘡対策委員会、短大教授会、衛生委員会	緩和ケア委員会 がんサーボード・セミナー	
20	水	第8回国際交流部運営委員会 [機器等安全自主点検日]	糖尿病教室 診療材料検討委員会	臨床研修歯科医教育セミナー
21	木	TDCビル協議会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 労務管理担当マネージャー会議 管理診療委員会	
22	金		地域連携セミナー	
23	土	5年生共用試験臨床実習後客観的臨床能力試験(CSX)		
24	日			
25	月	4年生前期追・再試験(～12/28)	がんサーボード	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会
26	火	1～3年生冬期休暇開始(～1/9)	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会	
27	水	水病業務連絡会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会 保険診療委員会 再指導対策プロジェクト会議	業務連絡会
28	木	仕事納めの挨拶	仕事納めの挨拶	仕事納めの挨拶
29	金	年末年始休業(～1/4)		
30	土			
31	日			

2024年1月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	月	年末年始休業(～1/4)		
2	火			
3	水			
4	木			
5	金	仕事始めの挨拶、6年生第4回総合学力試験(～1/6) 短大水道橋病院臨床実習小委員会 [防火・防災安全自主点検日]	仕事始めの挨拶 臨床検査運営委員会(メール開催)	仕事始めの挨拶
6	土			
7	日			
8	月	成人の日		
9	火	1～3年生冬期休暇 終了(12/26～)、4年生冬期休暇 終了(12/29～) 水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
10	水	1～4年生授業再開、水病リスクマネジメント部会 水病薬事委員会	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会・利 益相反委員会 ICU運営委員会、CPC	
11	木	口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 水病第2回地域医療連携委員会・懇親会	患者サービス向上委員会 感染制御委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会 プログラム委員会	診療録整備部会
12	金	ウェルビーイングプロジェクト若手研究助成・大学院 生研究助成進捗状況報告会 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	こどもサポートチーム運営会議	
13	土			
14	日			
15	月	4年生後期授業終了、短大教授会 [環境清掃日][危険物・危険薬品廃棄処理日]	医療安全管理委員会 薬事委員会	千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター研修管理小部会 千葉歯科医療センター医療連携部会
16	火		緩和ケア委員会	千葉歯科医療センター医局長会
17	水	4年生後期定期試験(～1/24)、基礎教授連絡会 大学院運営委員会、大学院研究科委員会 ウェルビーイングプロジェクト若手研究助成・大学院 生研究助成進捗状況報告会	褥瘡対策委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会	
18	木	ウェルビーイングプロジェクトイノベーション促進研 究費助成進捗状況報告会 第9回図書館事務連絡会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 労務管理担当マネージャー会議 衛生委員会 説明と同意の質向上委員会 内視鏡室委員会	
19	金	第170回倫理審査委員会・第111回利益相反委員会	NSTカンファレンス 栄養管理委員会	
20	土	[機器等安全自主点検日]		臨床研修歯科医教育セミナー
21	日			
22	月		がんサーボード	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会
23	火	衛生委員会	2023年度第2回総合防災訓練 クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会 外来運営委員会	

24	水	水病医療事故防止の為の相互チェック [国公立大学歯学部附属病院間] 第5回図書委員会、水病業務連絡会 第9回国際交流部運営委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 高難度新規医療技術等評価室運営会議 医療機器安全管理委員会 糖尿病チームカンファレンス 再指導対策プロジェクト会議 保険診療委員会 DPC 症例検討委員会	千葉歯科医療センター業務連絡会
25	木	TDC ビル協議会、水病教職員研修会	管理診療委員会 バスキュラーボードカンファレンス	
26	金	1～3年生後期授業終了、4年生総合学力試験	リスクマネージャー会議 給食運営会議 業務改善委員会	
27	土	短大専攻科入学試験(Ⅱ期)、短大教授会		
28	日			
29	月	1～3年生後期授業(予備日)(～1/30)		
30	火	水病医療安全地域連携加算施設間の相互チェック [市川総合病院間]	緩和ケア委員会	
31	水			

2024 年度 東京歯科大学 学年暦

年月日	曜	行事予定	
2024年4月1日	月	新入生・編入生オリエンテーション	
3日	水	5年生オリエンテーション	
5日	金	入学式	
8日	月	5年生授業開始	
9日	火	新入生プレースメントテスト 2・3・4年生オリエンテーション 新入生健康診断	
10日	水	1~4年生前期授業開始 5年生登院式(予定)	4/16(火) 全体教授会 [15:30]
24日	水	} フレッシュマンセミナー(予定) } 1~4年生休講日(4/29~5/6 連休)	
26日	金		
4月30日	火		
5月2日	木		
5月30日	木	6年生第1回総合学力試験(31日(金)まで)	5/21(火) 講座主任教授会 [15:30]
6月14日	金	実験動物供養祭(3年生)(予定)	6/1(土) 東歯学会例会(予定) 6/11(火) 講座主任教授会 [15:30] 6/22(土) 父兄会総会
7月17日	水	振替授業(月曜日分)	7/9(火) 講座主任教授会 [15:30]
7月23日	火	1~4年生夏期休暇開始(9月1日(日)まで)	
8月29日	木	6年生第2回総合学力試験(30日(金)まで)	
9月2日	月	1~4年生授業再開	
11日	水	1~4年生前期授業終了	
12日	木	1~4年生前期授業(予備日)(13日(金)まで)	9/17(火) 全体教授会 [15:30] (受験資格判定を含む)
18日	水	1~4年生前期定期試験(26日(木)まで)	
25日	水	3年生学外セミナー(26日(木)まで)	
27日	金	1~4年生後期授業開始	
28日	土	5年生第1回総合学力試験	
10月15日	火	振替授業(月曜日分)	10/15(火) 講座主任教授会 [15:30]
28日	月	6年生第3回総合学力試験(29日(火)まで)	10/19(土) } 東歯学会総会(予定) 10/20(日) }
11月2日	土	} 東歯祭(1日(金)は準備日)(予定) } 解剖慰霊祭(2年生)(予定) } 学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜 } 編入学A、学士等特別選抜A(未定)	
3日	日		
6日	水		
23日	土		11/12(火) 講座主任教授会 [15:30] 11/30(土) 修学指導関係者・保護者個別面談会
12月24日	火	1~4年生前期追・再試験(27日(金)まで)	12/2(月) 講座主任教授会(臨時) [11:00] (学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜 編入学A、学士等特別選抜A合格判定を含む)
28日	土	1~4年生冬期休暇開始(1月9日(木)まで)	12/17(火) 講座主任教授会 [15:30]
2025年1月7日	火	6年生第4回総合学力試験(8日(水)まで)	
10日	金	1~4年生授業再開	1/10(金) 講座主任教授会 [15:30] (卒業判定)
21日	火	1~4年生後期授業終了	
22日	水	1~4年生後期授業(予備日)(23日(木)まで)	
25日	土	4年生臨床実習前共用試験(OSCE)テストラン(教職員のみ)	
26日	日	4年生臨床実習前共用試験(OSCE)	
28日	火	4年生総合学力試験	
2月2日	日	一般選抜(I期)大学入学共通テスト利用選抜(I期)(未定)	
5日	水	4年生臨床実習前共用試験(CBT)	2/4(火) 講座主任教授会(臨時) [15:30] (受験資格判定)
6日	木	1~4年生後期定期試験(13日(木)まで)	
7日	金	5年生第2回総合学力試験	
10日	月	5年生共用試験 CSX	
12日	水	本学創立記念日	
13日	木	2年生総合学力試験	2/13(木) 講座主任教授会 [13:00] (一般選抜(I期)、共通テスト(I期)合格判定)
14日	金	3年生総合学力試験	
17日	月	1年生総合学力試験	
26日	水	1~4年生後期追・再試験(3月3日(月)まで)	
27日	木	4年生臨床実習前共用試験(OSCE)追・再試験	
28日	金	4年生臨床実習前共用試験(CBT)追・再試験	
3月1日	土	5年生共用試験 CSX 追・再試験	
3月4日	火	3・4年生総合学力追・再試験	3/11(火) 講座主任教授会 [13:00] (一般選抜(II期)、共通テスト(II期)編入学B、 学士等特別選抜B合格判定を含む)
5日	水	1・2年生総合学力追・再試験	
8日	土	一般選抜(II期)、大学入学共通テスト利用選抜(II期) 編入学B、学士等特別選抜B(未定)	3/25(火) 講座主任教授会(臨時) [15:30] (1・2・3・4・5年生進級判定)
14日	金	5年生総合学力追・再試験	
15日	土	第130回卒業式(予定)	

参考：2024年8月1日(木)~10日(土)全日本歯科学生総合体育大会

2024年度 東京歯科大学短期大学 歯科衛生学科・専攻科 学年暦

年月日	曜	行事予定		
2024年4月1日	月	歯科衛生学科新入生オリエンテーション(~5日) 専攻科新入生オリエンテーション 3年生 オリエンテーション(~3日) 入学式 3年生 II期臨床・臨地実習開始 2年生 オリエンテーション 1・2年生 前期授業開始 3年生 前期授業開始	4/22(月) 教授会	
2日	火			
4日	木			
5日	金			
5日	金			
8日	月			
11日	木			
5月1日	水	1・2年生 休講日(4/29~5/5連休)	5/27(月) 教授会	
2日	木			
6月			6/17(月) 教授会	
7月		和洋国府台女子中学校高等学校 実習	7/16(火) 教授会	
21日	日	1・2年生 夏季休暇(~8/31(木))		
30日	火	3年生 集合日 学内模擬試験		
8月1日	木	3年生 夏季休暇(~8/31(土))	8/26(月) 教授会	
9月2日	月	1~3年生 前期授業再開、3年生 II期臨床・臨地実習再開 3年生 前期授業終了 1・2年生 前期授業終了 1・2年生 前期授業予備日(~11日) 3年生 II期臨床・臨地実習終了 1・2年生 前期定期試験期間開始 3年生 前期定期試験 3年生 II期臨床・臨地実習補充発表 3年生 II期臨床・臨地実習補充期間(~9/20(金)) 2年生 前期定期試験終了 2年生 臨床・臨地実習オリエンテーション(~9/30(月)) 3年生 III期臨床・臨地実習オリエンテーション(~9/30日(月)) 1年生 前期定期試験終了 1年生 前期定期試験予備日	9/10(火) 教授会(臨時)(前期定期試験受験資格判定)	
5日	木			
9日	月			
10日	火			
11日	水			
12日	木			
12日	木			
13日	金			
17日	火			
20日	金			
24日	火			
24日	火			
27日	金			
30日	月			
10月1日	火	1・3年生 後期授業開始、2年生 臨床・臨地実習開始式 2年生 I期臨床・臨地実習開始 2年生 I期臨床・臨地実習日 3年生 卒業研究発表会(1・2年生出席) 3年生 III期臨床・臨地実習開始 総合型選抜(I期)(予定)	10/21(月) 教授会	
2日	水			
3日	木			
4日	金			
8日	火			
12日	土			
11月2日	土	修学指導に関する保護者説明会 3年生 III期臨床・臨地実習終了 学校推薦型選抜、学士選抜(予定) 専攻科入学試験(I期)(予定)	11/5(火) 教授会(臨時)(総合型選抜(I期)合格判定)	
5日	火		11/18(月) 教授会(学校推薦型選抜、学士選抜合格判定)	
9日	土			
30日	土			
12月2日	月	1・2年生 前期追・再試験(~12/24) 3年生 第1回 卒業試験(予定) 総合型選抜(II期)(予定) 専攻科：学位授与機構 小論文試験(予定) 冬季休暇(~1/7)	12/2(月) 教授会(臨時)(専攻科入学試験(I期)合格判定、第1回卒業試験受験資格判定(予定))	
3日	火			
14日	土			
15日	日		12/16(月) 教授会(臨時)(総合型選抜(II期)合格判定)	
25日	水		12/23(月) 教授会	
2025年1月8日	水	1年生 後期授業再開、2年生 I期臨床・臨地実習再開 2年生 臨時休講 3年生 第2回 卒業試験(予定) 専攻科入学試験(II期)(予定) 1年生 後期授業予備日(~30日) 2年生 後期授業終了 1年生 後期授業終了	1/15(水) 教授会(第2回卒業試験受験資格判定を含む)	
14日	火			
16日	木			
25日	土		1/27(月) 教授会(臨時)(専攻科入学試験(II期)合格判定)	
28日	火			
30日	木			
31日	金			
2月1日	土	一般選抜(予定) 1年生 後期授業予備日(~4日) 3年生 第3回 卒業試験(予定) 1年生 後期定期試験(~19日(水)) 2年生 後期定期試験 東京歯科大学創立記念日 2年生 I期臨床・臨地実習日 3年生 学生集合日(卒業判定結果発表) 2年生 I期臨床・臨地実習日 2年生 I期臨床・臨地実習終了 1・2年生 学生集合日(後期定期試験結果発表)	2/3(月) 教授会 (一般選抜合格判定、後期定期試験受験資格判定、第3回卒業試験受験資格判定、専攻科修了判定を含む)	
3日	月			
4日	火			
5日	水			
6日	木			
12日	水			
13日	木		2/13(木) 教授会(臨時)(卒業判定)	
14日	金			
20日	木			
21日	金		2/25(火) 教授会	
27日	木			
3月1日	土		総合型選抜(III期)(予定) 第34回歯科衛生士国家試験(予定) 1・2年生 後期追・再試験(~7日(金)) 2年生 I期臨床・臨地実習補充期間(~7日(金)) 短期大学5期生卒業式・専攻科第4期生修了式(予定) 1・2年生 学生集合日(進級判定結果発表)(予定) 新3年生 II期臨床・臨地実習オリエンテーション(市川総合病院) 第34回歯科衛生士国家試験合格発表(予定) 春季休暇(~3/31)	3/3(月) 教授会(総合型選抜(III期)合格判定)
2日	日			
3日	月			
3日	月			
14日	金	3/17(月) 教授会(進級判定)		
18日	火			
19日~24日 (いずれか1日)				
25日	火	3/28(金) 教授会		

# 時間割表

2024年度 東京歯科大学 時間割

		さいかち坂校舎											
		1年		1年		1年		1年		1年			
		月		火		水		木		金			
前期	8:50 ~ 10:10	α 一般数学Ⅰ	β 医療法医学	身体 の健康と 体育理論		コミュニケーション学		エー 一般生物Ⅰ	ウ 自然科学演習 (化学・物理)		A 英語Ⅱ	B 英語Ⅰ	人体解剖学入門
	10:25 ~ 11:45	α 医療法医学	β 基礎数学Ⅰ	歯科医療管理 学入門		中国語		韓国語	日本語表現		A 英語Ⅰ	B 自然科学演習 (生物)	生物学概論
	12:55 ~ 14:15	A 哲学	B コミュニケ ーション学入門	一般化学Ⅰ		基礎化学Ⅰ		エ 自然科学演習 (化学・物理)		ウ 基礎生物Ⅰ	A 自然科学演習 (生物)		B 心理学
	14:30 ~ 15:50	A コミュニケ ーション学入門	B 哲学	情報科学		基礎物理Ⅰ		一般物理Ⅰ		A 心理学	B 英語Ⅱ		体育
	16:05 ~ 17:25	歯科医学の ための 一般教養		補習		補習		ホームルーム		ホームルーム		補習	

		さいかち坂校舎									
		2年		2年		2年		2年		2年	
		月		火		水		木		金	
	生理学	サイエンス入門		B 実習自然科学Ⅱ		組織学		口腔解剖学		人体の構造 と機能	
	生理学	A 歯科医学英語		B 実習自然科学Ⅱ		組織学		口腔解剖学		生体構成 物質の化学	
	生体現象の 物理学	A 実習自然科学Ⅱ		サイエンス入門		解剖学		口腔解剖学実習		解剖学	
	分子の 生命の 基盤	B 歯科医学英語		解剖学		解剖学		補習		補習	
		ホームルーム		補習		補習					

		さいかち坂校舎											
		1年		1年		1年		1年		1年			
		月		火		水		木		金			
後期	8:50 ~ 10:10	A 自然科学演習	B 経済学	A 英語Ⅱ		B 実習自然科学Ⅰ		生物学Ⅱ		A 生命倫理	B 心理学	ア 一般化学Ⅱ	イ 英語Ⅰ
	10:25 ~ 11:45	A 経済学	B 自然科学演習	A 美術		B 実習自然科学Ⅰ		生物学Ⅱ		A 心理学	B 生命倫理	ア 英語Ⅰ	イ 基礎化学Ⅱ
	12:55 ~ 14:15	α 統計学入門	β 基礎数学Ⅰ	A 実習自然科学Ⅰ		B 美術		基礎物理Ⅱ	一般物理Ⅱ	中国語	韓国語	日本語表現	体育
	14:30 ~ 15:50	α 一般数学Ⅰ	β 統計学入門	B 英語Ⅱ		ホームルーム		中国語	韓国語	日本語表現	日本語表現		体育
	16:05 ~ 17:25	補習		補習		補習		補習		補習		補習	

		さいかち坂校舎									
		2年		2年		2年		2年		2年	
		月		火		水		木		金	
	微生物学	生理学		A 解剖学実習		B 組織学実習		歯科理工学		発生病態学	
	微生物学	口腔生理学		A 解剖学実習		B 組織学実習		歯科理工学		衛生学	
	生化学	解剖学		A 組織学実習		B 解剖学実習		口腔組織学		英語Ⅲ (歯科医学 英語講読)	
	生化学	解剖学		A 組織学実習		B 解剖学実習		口腔組織学実習		歯の病変	
	補習	ホームルーム		補習		補習				補習	



		水道橋校舎新館				
		3年	3年	3年	3年	3年
		月	火	水	木	金
前期	9:00 ～ 10:25	歯科薬理学	口腔微生物学	A 微生物学実習 B 生理学実習	衛生学 衛生学実習	生化学
	10:35 ～ 12:00	薬理学	病理学			
	13:00 ～ 14:25	歯内療法学	病理学	口腔生理学	歯科理工学	薬理学実習 生化学実習
	14:35 ～ 16:00	保存修復学	病理学実習	A 生理学実習 B 微生物学実習	歯科理工学実習	
	16:10 ～ 17:30	保存修復学 補習	ホームルーム・ 補習			

		水道橋校舎新館				
		4年	4年	4年	4年	4年
		月	火	水	木	金
		歯科矯正学	臨床検査学	局部床義歯 補綴学	口腔外科学Ⅰ (口腔顎顔面 外科学)	小児歯科学実習
		歯科矯正学実習	クラウン ブリッジ 補綴学	社会歯科学	口腔外科学Ⅱ (口腔病態 外科学)	小児歯科学
		歯科麻酔学	社会歯科学・ 口腔衛生学実習	コミュニケーション学 (矯正・児歯合同実習)	歯周療法学	小児歯科学
		内科学 隣接医学	社会歯科学・ 口腔衛生学	口腔衛生学実習	オーラルメディアシン 外科学 隣接医学	歯科放射線学 実習 ホームルーム・ 補習
					隣接医学	隣接医学

		水道橋校舎新館				
		3年	3年	3年	3年	3年
		月	火	水	木	金
後期	9:00 ～ 10:25	保存修復学	歯科矯正学	老年歯科補綴学	歯科補綴学総論	小児歯科学
	10:35 ～ 12:00		口腔病理学		口腔衛生学	歯内療法学
	13:00 ～ 14:25	保存修復学実習	口腔病理学		薬理学	
	14:35 ～ 16:00		口腔病理学実習	老年歯科補綴学実習	コミュニケーション学(医療面接)	歯内療法学実習
	16:10 ～ 17:30	保存修復学実習 補習	ホームルーム・ 補習		隣接医学	

		水道橋校舎新館				
		4年	4年	4年	4年	4年
		月	火	水	木	金
		(社会保障制度・医療倫理・ 医療安全)	クラウン ブリッジ 補綴学	口腔外科学Ⅰ (口腔顎顔面 外科学)	歯周療法学実習	口腔インプラント学
		歯科医療管理学		口腔外科学Ⅱ (口腔病態 外科学)	歯周療法学	口腔インプラント実習
		法歯学	クラウンブリッジ補綴学実習	歯科麻酔学	歯周療法学	口腔健康科学(障害者歯科学・摂食嚥下リハビリテーション学)
		第4学年 総合講義		歯科麻酔学実習(A・B) 口腔外科実習(A・B)	歯内療法学 外科学	コミュニケーション学
		内科学		歯科放射線学	歯科放射線学	地域包括ケアと高齢者の歯科診療 (講義・介護施設実習・地域包括実習) 外科学

# 時間割表

## 2024年度 東京歯科大学短期大学 時間割

### 1 学年前期

	月	火	水	木	金	
1限 9:20 ~10:45	コミュニケーション 理論と実際	口腔衛生学		病理・口腔病理学	心理学 <選択科目>	歯科衛生学概論
2限 11:00 ~12:25	歯科疾患予防論	公衆衛生学	組織・ 口腔組織学	生化学	微生物・口腔微生物学	英語 I (基礎英語)
3限 13:20 ~14:45	法学 <選択科目>	生理・口腔生理学		中国語 <選択科目>	生物学	情報リテラシー
4限 15:00 ~16:25	解剖・口腔解剖学			国際保健学 <選択科目>	経済学 <選択科目>	

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

### 2 学年前期

	月	火	水	木	金			
1限 9:20 ~10:45	口腔外科学	A 班 実習 II (歯科診療 補助) 《※》	B 班 実習 III (歯科保健 指導) 《※》	保健医療福祉論	看護学概論	A 班 実習 I (歯科予防 処置) 《※》	B 班 卒業研究 《※》	
2限 11:00 ~12:25	歯科衛生実践論		歯科矯正学	在宅歯科 衛生管理論	口腔インプ ラント学			
3限 13:20 ~14:45	英語 II (歯科衛生士英語)	A 班 実習 III (歯科保健 指導) 《※》	B 班 実習 II (歯科診療 補助) 《※》	卒業研究 《※》	口腔機能 リハビリ テーション論	全身管理学	A 班 卒業研究 《※》	B 班 実習 I (歯科予防 処置) 《※》
4限 15:00 ~16:25	臨床栄養学	地域歯科 衛生学			演習 I (障害者歯科・ 摂食機能療法)			

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

《※》 実習 I～III、卒業研究については、2班編成で行う。  
授業時間、場所については、シラバス、掲示等を確認すること。

### 3 学年前期

	月	火	水	木	金	
1限 9:20 ~10:45				演習 III (地域歯科衛生)	臨床・臨地実習 II	
2限 11:00 ~12:25				キャリアデザイン		
3限 13:20 ~14:45		臨床・臨地実習 II		卒業研究		総合演習
4限 15:00 ~16:25				総合演習		

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

1 学年後期

	月	火	水	木	金			
1 限 9:20 ~10:45	歯科補綴学	高齢者歯科学	小児歯科学	歯周病学 歯内療法学	保存修復学 歯科放射線学			
2 限 11:00 ~12:25	歯科材料学	歯科保健 指導論	歯科感染 予防学	歯科衛生 統計学	英語 I (基礎英語)	韓国語 <選択科目>	統計学	
3 限 13:20 ~14:45	歯科保健 指導論	スペシャル ニーズ歯科学	A 班 実習 II (歯科診療補助)	B 班 実習 I (歯科予防処置)	A 班 実習 I (歯科予防処置)	B 班 実習 II (歯科診療補助)	生命倫理	薬理・歯科薬理学
4 限 15:00 ~16:25							食育論 <選択科目>	

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

2 学年後期

	月	火	水	木	金
1 限 9:20 ~10:45	臨床・臨地実習 I			医科疾患患者への歯科衛生	臨床・臨地実習 I
2 限 11:00 ~12:25				演習 II (歯科保健指導)	
3 限 13:20 ~14:45				専門職間の連携活動論	
4 限 15:00 ~16:25				卒業研究	

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

3 学年後期(第 1 週~第 4 週) 10 月

	月	火	水	木	金
1 限 9:20 ~10:45	臨床・臨地実習 III				
2 限 11:00 ~12:25					
3 限 13:20 ~14:45					
4 限 15:00 ~16:25					

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

3 学年後期(第 5 週~第 13 週) 11 月~2 月

	月	火	水	木	金
1 限 9:20 ~10:45	総合演習	総合演習	総合演習	総合演習	総合演習
2 限 11:00 ~12:25					
3 限 13:20 ~14:45					
4 限 15:00 ~16:25					

(注)ホームルーム：月 1 回程度実施(掲示等で確認すること)

この角度が  
松井式

リレー連載

# あのころ私も若かった！



今号の「私」は  
**松井 淳一** 副学長

岐阜県飛騨古川町(現・飛騨市)出身

昭和54年 慶應義塾大学医学部卒  
硬式野球部

岐阜から中学時代の修学旅行で訪れた国立代々木競技場を見て以来、丹下健三氏の建造物に憧れた私は、「親元を離れ、都市工学を学びたい」と夢見ていました。そこで東京大学理科一類と慶應義塾大学医学部の2校だけを受験しました。結果的に授業料減免特待生になることができた慶應医学部に進学しました。

「親元を離れる」という夢は叶いましたが、1、2年生の医学部進学課程は日吉駅を挟んでキャンパスから反対側にあった夕食まかない付き三畳一間の下宿生活で、工学部の先輩4人と衣食住を共にするハチャメチャな下宿生活でした。そのため成績は急降下してしまい、3年生になり信濃町での医学部専門課程が始まると、得意だった数学と物理がまったく役に立たず、困り果ててしまったことは今でも鮮明に覚えています。

バイトはもちろん家庭教師。中学生から医学部浪人生まで4名を同時期に教えたこともありました。そのバイト代を貯めて、4年生の時に欧州8か国を鉄道二等席乗り放題のStudent-Eurail Passで1か月間、同級生とバックパッカーで回りました(講義の代返はポリクリの同級生がやってくれました)。

クラブは「ただの野球ファン」で「小学生時代に野球クラブに入っていた」というだけで硬式野球部に入ってしまった。でも大学5年秋季リーグでは10数年ぶりに優勝を果たし、優勝祝賀会には《世界のホームラン王》こと王 貞治氏が出席してくれました。

卒後、「自分は外科医しかない」と漠然と思っていたので外科に入局しました。慶應義塾大学病院ではフレッシュマンならではのキツイ毎日で、当直明けのオペ中に寝ては「松井！」と怒鳴られたこともありました。その後、自分の人生を決定づける先輩たちにも出会うことができました。それは憧れるほどスマートな診療をされる、臍臓を専門とする先生方でした。「先輩たちのような医師になりたい」そして「チャレンジしたい」という思いから、卒後4年目に肝胆膵の道に進みました。

40歳のとき阪神・淡路大震災が発生し、自ら志願して救護班として参加出動しました。避難所の厳しい環境の中で被災者診療を昼夜問わず行いました。

## イケメン 淳ちゃんの今日までの歩み



学生時代は下駄を愛用?



硬式野球部時代



※写真は合成ではありません



6年生のポリクリではバーバパパがパートナー



阪神・淡路大震災時は救護班として被災者診療を行いました



「自分は外科医しかない」その決意は今も変わらない



広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

井上 直記

上田 貴之

岡田 舞

河合 宏明

国分 栄仁

世木田 晋

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

## 編集後記

回想と抱負より…。One Teamとなつて努力し、長いトンネルの出口がようやく見え始める。今、改めて感じるのは、対面で気持ちを込めて語り合うことの大切さ。でも、人に伝えることの難しさを実感してしまう。年々、月日の経過が早くなっていく。過去を振り返り、自分が成長できたかを回想する。目標に向かって頑張っている人が溢れているなかで、周りから取り残されることへの不安。百戦錬磨の先生たちの臨床を見て、基本と臨機応変の大切さを学ぶ毎日。努力をすれば結果がついてくるとわかった1年。さらなる向上心を持って臨み続ける。研究で頭と手を動かし、友との遊びを楽しみながら。

国家試験への不安は、教室の壁とホワイトボードを何百回も埋め尽くしてきた夥しい数の言葉と、6年間の時間を共に過ごした大切な仲間たちが取り去ってくれた。そして背中をずっと押して励ましてくれた先生たちがいる。静かで熱い応援を背に、学生生活最後のステージに立つ。絶対に大丈夫！と、自分を信じて。



国家試験の直前。慣れ親しんだ12階。パーティションで区切られた部屋の最後の日。129期のチームの仲間と一緒にいたから、ここまで来られた、と。